

6. 結果のとりまとめ

総便益(B)を総費用(C)で除し、費用便益比(B/C)を算定する。
 定量化できなかった効果項目を整理する。

総便益と総費用から、費用便益比(B/C)を算定する。金銭評価できなかった項目も含め、表Ⅲ-6.1の書式に整理する。

表Ⅲ-6.1 水道事業の費用対効果分析結果の記入様式（記入例）
 （区分：水道水源開発施設整備事業） 平成 年 月 日

事業評価書概要			
事業主体	〇〇市水道局	事業名	〇〇市水道事業(第N次拡張事業)
事業箇所	△△県〇〇市	補助区分	水道水源開発施設整備事業
事業着手年度	平成元年度	工期	平成1年度～平成25年度
今回見直し総事業費		14,402百万円	
事業概要			
事業の目的・必要性	<p>■目的 本事業は、◇◇ダムに参画し、安定した水源の確保を図るものである。</p> <p>■必要性 平成8年度から平成17年度までの動向を踏まえて水需要予測を行ったところ、需要水量の増加が見込まれるため、安定した水源の確保が必要である。</p>		
	<p>■当時の状況 (略)</p>		
事業策定の経緯・内容			